

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.374.2025

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2025年11月20日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 加藤雄一
編集人 / 松島晃子

12

120th
ANNIVERSARY
SENDAI YMCA



異年齢の多様な関わりの中で育ち合う生活をしているこども園では、日々の生活や活動の中で「YMCAキャラクターデベロップメント」の4つの価値、「Caring(思いやり/やさしさ)、Honesty(誠実さ)、Responsibility(責任感)、Respect(尊敬心)」を大切にしています。

『Caring』～思いやり/やさしさ～

赤ちゃんをあやし、靴を履かせてくれたり、優しく微笑みかける姿に、4歳、5歳の子どもたちにも、思いやりの気持ちが育っていること、年上の子に優しくしてもらったことを、自然に受け継いでいると感じ嬉しくなります。ある日の園庭で、サッカーをした年長児のA君とドッチボールをしたいBちゃんとの「自分たちがここを使いたい!」と、互いの主張のぶつかり合いになりました。

(第2面へつづく)



仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。
喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをととし、共に成長できる生き方をすすめます。
世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に広げます。

私たちは、人と人とのかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を広げます。
子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

保育者が、声をかけるタイミングを見計らっていると、「Aくんは、どうしたいの?」「じゃあこうするのはどう?」と、双方の話を聞き、提案しながら間に入ってくれる子がいました。じっくり話を聞いてもらったことで徐々に気持ちも落ち着き、最後は「ボールが混ざらない(わからなくなる)なら、ここでいいよ。」とA君がBちゃんたちに譲る形に・・・。

その後、なんと、サッカーをしたい子たちだけでなく、ドッジボールのメンバーと一緒に、重いサッカーゴールを運び準備をしてくれていました。

お互いの主張を出し合い、解決すべき課題を見つけ、お互いにとって良くなるように話し合って折り合いをつける。話を聞いてくれた友だち、見守る保育者にも、仲間への優しさを感じる場面でした。これからも、互いに思いやり、優しさをもって関わることで平和をつくり出す人となっていってくれることを願います。

(YMCA長町こども園 主幹保育教諭 堀籠紫沙)



『Honesty』～正直になる～



長縄跳びに挑戦することが増えてきた 4歳児の子どもたち。自分の記録を更新し続けたり、回っている縄にタイミング良く入れるようになってきたり、様々な技に挑戦しています。一人で何度も跳べるようになって、数人で跳ぶことに興味を持ちました。C君は、始めのうちうまく跳ぶことができませんでしたが、友だちと一緒に跳びたい気持ちから、何度も一緒に挑戦していました。C君が途中で引かかった時に「ぼくが引かかった。ごめんね。」と正直に話す姿がありました。すると、Dちゃんが「大丈夫だよ。次頑張ろう!」と声をかけてくれました。C君は嬉しい様子でその後も諦めずに何度も取り組む姿が見られました。

「正直になる」ことは勇気があることです。その勇気を認めてお互いに誠実な気持ちを持っていれば、みんなが幸せな気持ちになれたと感じた出来事でした。子どもたちがいつまでも誠実な人であってほしいと願っています。

(YMCA加茂こども園 主幹保育教諭 鈴木智恵美)

『Responsibility』～出来ることは自分です

日々の生活や遊びの中で、自分で考えたり、試行錯誤を繰り返しながら過ごす場面が多くあります。

先日は、職員がトイレのスリッパを並べていた際、隣にしゃがみ込み、さりげなく手伝い始めた 4歳児の Eちゃんがありました。翌日、Eちゃんはバラバラになっているスリッパを見つけて、何も言わずに並べ始めていました。左右逆に並べているものもあって、後でこっそり直そうと思っていましたが、右にしてみたり、左にしてみたり…。試行錯誤の末、全て綺麗に並べることが出来たのです。その姿を近くで見ていた友だちがいました。その子たちは、園内にある他のトイレのスリッパを並べたり、自分で脱いだスリッパを綺麗に並べようとしていたり…。「綺麗だと気持ちがいいね」「次に使う人が嬉しいよね」と話す子もいて、心が温かくなりました。“出来ることは自分です”という姿が、1人から2人、3人へと広がっていくことを感じた出来事でした。“出来ることは自分です”ということは、自分のことだけではなく、相手にも目を向けることへとつながります。幼児期から“自分で出来る小さなこと”に気付けるような関わりを大切にしていきたいと思います。

(YMCA西中田こども園 主幹保育教諭 木村由佳)



『Respect』～人を大切に思う～



人を大切に思うためには、まず自分を大好きでいてほしいと願いながら、日々子どもたちと関わっています。

YMCAこども園で行っているキリスト教保育は、「あなたはあなたのままでいいよ」と存在をまるごと認められること、愛されているとすることが土台にあります。「〇〇君がいてくれて嬉しい!」「〇〇ちゃんが大好き!」と言葉で伝え、一人一人を受け止めることを大切にしています。「隣人を自分のように愛しなさい(ルカによる福音書 10章 27節)」と聖書の言葉にあります。愛されて育ち、自分のことが大好きな子どもたちは、家族や友だちのこと…さらには地域や世界にも目を向け、困っている人を助け、共に生きることが

できると信じています。

また、子どもたちと関わる保育者一人ひとりも大切な存在でいられるように、互いに認め合い、声を掛け合う温かな保育現場を目指しています。

(YMCA南大野田こども園 主幹保育教諭 山田彩子)

楊州YMCA・仙台YMCA国際平和フォーラム

2025年10月30日、仙台YMCAと韓国・楊州YMCAは国際平和フォーラムを開催し、今後の両YMCAの平和運動の方向性を示す共同宣言を発表いたしました。（<https://sendai-ymca.org/1752/>）

仙台YMCAと楊州YMCAは、コロナ禍によって途絶えていた日韓の交流を再びつなぎ直すため、対話を重ね、共に歩みを進めてきました。創立120周年となる今年、仙台YMCAでは「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイによる福音書5章9節）を年間聖句に掲げ、すべての事業を推進してまいりました。その中で、平和への具体的な一歩として共同宣言が実現したことを、大変うれしく思います。

フォーラムでは、歴史的背景や認識の違いが浮かび上がる場面もありました。しかし両YMCAは、その違いこそ対話の出発点であり、相手の立場に耳を傾け尊重することが平和の第一歩であると確認し合うことができました。この姿勢の共有こそが今回の国際平和フォーラムの意義であり、YMCAが願う「平和をつくる世界」への具体的な行動だと考えます。

対話を重ねる中で、単なる情報交換にとどまらず、互いの経験や思いを「語り」「聴き合う」関係が生まれました。多賀城や石巻といった震災ゆかりの地を訪れた韓国側参加者は、地域の方々との出会いや歴史への理解を深め、仙台側にとっても韓国社会が抱える課題や若者の思いに触れる貴重な機会となりました。歴史や文化の違いは一度の対話で理解し合えるものではありませんが、互いの痛みや願いに触れることは、相手を尊重する心を育み、それが平和の礎になると信じています。

加藤 総主事の

『みつかる。つながる。
よくなっていく。』

連載

第24回
「国際平和フォーラム」



重要なことは、この対話が一過性の行事ではなく、“継続”を前提とした関係づくりであるという点です。今回まとめられた若者同士による共同宣言や、小グループでの対話の時間は、互いを仲間として認識し、信頼を育む場となりました。信頼は国境を越え、共に未来をつくっていく仲間であるという確信を生みます。民間の交流だからこそ実現しうる価値だと言えるでしょう。

仙台と楊州のYMCAが歩み始めた対話の継続は、互いの違いを認めながら、次世代が協力して生きるための未来志向の平和づくりです。市民同士の対話が積み重なれば、社会全体の空気を変え、国と国の関係を支えする力にもなります。今回のフォーラムは、その希望の最初の一歩であり、これから続いていく対話と交流こそが、平和への確かな道となるはずだと信じています。



共同宣言は
こちら



維持会費（10月16日～11月15日）

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

維持会員A 狩野 和哉

※敬称略



絵：伊勢文夫さん

一般会員・サポート会員を
随時募集中です

ぜひ会員として、

仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7533

FAX:022-222-2952

及川絵里奈さん（年長 葵ちゃんの保護者）

我が家とYMCAの出会い、10年前長女がYMCA西中田保育園に入園したタイミングでした。今となっては記憶はおぼろげですが、初めての保育園で大変な事もたくさんあったはずなのに、保育園の思い出は楽しいものばかりです。あの頃は連絡ノートでのやりとりもありましたが、毎日お迎えの時に先生から、ごはんをたくさん食べたとか、こんな事を話したとか、どんな小さなことでもその日あったエピソードを伝えてもらう、あの時間がとても好きでした。

長女が卒園のタイミングで引越し、次女は南大野田保育園に入園をしました。園は変わりましたが、保育園の雰囲気は長女の在園時と変わらずすごく温かく、何より長女がお世話になった先生たちもいてとても心強かったです。次女の入園後は、祖父母に送迎をお願いすることも多く、先生たちと話をすることは減りましたが、それでもたまに送迎に行った際には、園での様子を教えてもらったり子どもの成長を共有できることが、わたしの日々のエネルギーのひとつになっています。我が家の子育ては、おかげではなく保育園と先生たちがいてくれたからこそまでこれと思っています。また、この10年間、子どもたちの保育園生活において、大きな悩みやストレスなく過ごせたことは本当に幸せなことだと思います。

先生たちからの大きな大きな愛を受けながら、我が家の子どもたちは本当にのびのびと自由に育っています。この先きっと、たくさんの悩みや困ったことがあるだろうけれど、今以上に自由に世界を広げていってほしいなと思います。

次女は来春から小学生になります。大好きだったYMCAとのつながりがなくなるのは寂しいですが、秋になったら北海道のかぼちゃを買いに園に遊びに行こうかなと思っています。



Volunteer

旭ヶ丘児童館

旭ヶ丘児童館 / 清野 俊輔

みなさん、こんにちは！

私たちは旭ヶ丘児童館のジュニアボランティアグループ「アサヒガオカナイン（以下ナイン）」に所属しています。ナインの活動は、①地域のためになることについて活動すること、②地球探検隊などの野外活動にジュニアボランティアとして参加し、児童館のリーダーのお手伝いや下級生のお世話をすること、の2つで構成されています。今回は、「仙台青年」に寄稿する機会をいただいたので、ナインについて、Q&A形式でお話します！

Q1：ナインに入ろうと思ったきっかけは？

A：兄がやっていたから、興味が有り、やりたくて入った。

A：地球探検隊で、ナインが挨拶をしていて、カッコいいと思ったから。

A：地域のごみ（空き缶）などを拾うボランティア活動をしたみたかったから。

Q2：これまでの活動の中で良かったことは？

A：お祭りの手伝いで、最後にみんなに「ありがとう」と言われたこと。

A：地球探検隊の時、色々な手伝いができたこと。

A：自分がおみ拾いの活動をして地域がきれいになったり、ナインのメンバーと仲良くなったこと。

Q3：印象に残っているプログラムは？

A：お祭り！

A：チャリティーラン

A：ごみ拾い！

Q4：これからもナインを続けたい？

A：全員で）はい！

旭ヶ丘児童館の清野俊輔です！今回インタビュアーを務めました。

ナインのみなさん、ご協力ありがとうございました。インタビューを通して、それぞれの思いや気持ちを聞けてよかったです。実は、このインタビュー形式のやり取りは、3年前の2022年にも行っていました。当時はナイン設立初年度、登録メンバーは3名、現在は設立4年目、登録メンバーは11名まで増えました。今手元にある3年前の仙台青年の記事を見比べつつ、今年の記事をまとめていますが、メンバーたちの答えの中に、3年間の時の流れと共に、確実にナインの歩みがあったなあとしみじみと思います。思い返せば、初年度は道なき道をメンバーと一緒に作っていたような感じでした。4年目の現在はすでに創設メンバーの2名は卒業し、ナインの活動は次世代へと引き継がれています。ナインに入ろうと思ったきっかけでも「兄がやっていたから」とか「ナインの挨拶がかっこいいと思ったから」など、3年間止まらずにやってきたことが下の世代に伝わり、今のメンバーたちのアンサーがあるように感じます。これからもナインは、ゆっくりでもいいので、止まることなく活動していきたいと思っています。ナインのみなさん、これからも一緒に頑張っていきましょう！



第54回仙台YMCAクリスマス

12月5日(金) 18:00-20:30

会場：トークネットホール仙台（旧：仙台市民会館）



YMCAクリスマスHP